

議 長 休憩を解いて再開いたします。 (13時00分)

午前に引き続き一般質問を行います。受付番号第4号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。

5 番 小 澤 来訪者に優しいまちづくりを提案する

要旨 質問のとおり

町 長 それでは、小澤議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

1番目の御質問にお答えをいたします。議員御指摘のとおり、松田町に来ていただいている方をおもてなしし、また来たいと言ってもらえる環境づくりのために、駅周辺に観光案内看板や障害者用のトイレの設置が必要な要素であることは私も認識をしております。設置に当たりましては、スペースや管理の問題、建設の問題など、大きく分けて3つの点でクリアしなければいけない課題もあるというふうにも思っております。特に新松田駅やJRの松田駅周辺におきましては、観光案内看板や公衆トイレの設置ができるスペースを確保することが難しい状況にもあり、桜まつり等の利用者の多いときは仮設トイレを設置し、対応しているのが現状でございます。中野議員の御質問の中でも申し上げさせていただきましたけども、常設のトイレを設置するには中丸児童公園等のトイレと同様であれば約1,100万かかっておりまして、設置スペース、管理、建設費の問題を意識した中で、現在はきれいさ、快適さにこだわったおしゃれな仮設トイレもありますので、このようなトイレの設置ができる条件が整った際には改めて議員の皆様にも御説明をさせていただきたいと考えておりますし、あわせて松田町商工振興会の皆さんや各商店街の皆さんを通じて、商店街の店舗のトイレの開放の御協力をいただいております、この方々をですね、さらにふやすようなことを今後も取り組んでまいりたいというふうにも考えておる所存でございます。

次に、観光案内看板の設置に関しましては、どの程度の看板を設置するかにもよりますが、大きさによってはスペースの確保の問題などが大きく影響をしております。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた中で、日本人観光客だけでなく外国人観光客にも訪れやすい環境づくりを積極的に進

めていかなければならないということも差し迫った問題でございますし、駅周辺の各店舗の皆様にはわざわざ松田町に来ていただくための魅力づくり、環境づくりに切なる協力をいただき、観光客の皆様に対するおもてなし環境の整備推進をしてまいる考えでもございます。

続きまして、2番目の御質問にお答えをいたします。西平畑公園は平成5年7月21日に開園をし、公園内に常設の男女別のトイレを設置してあり、桜まつりなどのイベント期間中、常設トイレの不足を補うために11基の仮設トイレを設置し、観光客への対応をしてまいっております。また、最明寺史跡公園は昭和58年4月に開園した当時の男女共用トイレがありますが、ことし初めて桜の時期にお花見無料送迎車を企画したこともあり、園内に3基の仮設トイレを設置し、対応をさせていただきました。

今後、両公園内のトイレ改修工事につきましては、町への交流人口の増加にとって非常に大切なことだと認識もしております。特に身障者の方のトイレの設置につきましては、高齢者の増加に伴うこともありますし、ますます必要性が増しているというふうにも思っております。このような中、先ほど駅前トイレと同様な考え方でおしゃれな仮設トイレもありますので、そのようなトイレを設置、建設ができる条件が整った際には改めて御説明申し上げたいというふうに考えており、当面という表現になってしまいますが、現在のトイレの改修につきましては、来年の春の来場客に間に合うよう、予算の中で水が流れる水圧等々の確保の改修工事を順次とり行ってまいりたいとも考えております。

続きまして、3つ目の観光客、もう60代以上が半数を占めているということにつきましてのお答えをさせていただきます。議員御提案の休憩所やベンチの設置につきましては、今後、高齢化が進んでくることを踏まえ、観光客を迎え入れるという目的だけではなく、町中での買い物をする方々たちが休憩できるようにするためにも、まちづくりとしての考え方として取り組んでいくべき大切な整備であるというふうにも認識をしております。ただやはりこの問題につきましても、町中はスペースが大変限られておりますので、商工業者の方や地域の自治会、商工振興会さん等々に働きかけを行い、休憩スペースの提供やベンチの設置、場所の提供等に対しまして御協力をいただける方々を引き

続き探していく所存でございます。町といたしましては、そのような方々から御了解をいただければ、すぐにでも設置に向けた調整を行ってまいりたいというにも考えている次第でございますので、議員の皆様方にも御理解、御協力を賜りたいというふうに存じます。以上でございます。

5 番 小 澤 私も今回の一般質問がですね、あるいは最後になる可能性もありますので、この8年間大変気になっておりました公衆トイレのことを再度取り上げさせていただきます。前回も前の町長の時にもですね、同じような質問をさせていただきますけれども、大変冷たい扱いを受けました。

実は今回の質問に対しましてね、私、改めてJR御殿場線・小田急線各駅のトイレを見て回ってきました。どこにも駅前にトイレがあるんです。相模金子だとか、それから東山北、谷峨、足柄、御殿場線の足柄ですね。無人駅にはトイレはないだろうなと思ったら、各自治体が駅のそばにトイレつくっているんですね。その上、見ていきますとね、一般の人が使えるトイレがないのはこの新松田駅とJR松田駅だけなんです。小田急線の栢山から足柄までの間は確かに駅前が狭いということで、そういった公衆トイレはありませんけれども、これは駅構内にトイレはありますけれども、これだけ交通の要衝の地にあって、昔からここに公衆トイレがない。このことを改めてびっくりさせられました。渋沢の駅前の公衆トイレは木造でできていますね。これは地元の木材をつくって建てました。ちゃんと書いてある。山北町の観光協会、駅前にありますけれども、あそこも同じように地元の木材を使って建てましたというように書いてあって、やはり観光客を大事にしようなところには、それなりに皆さん、力を入れている。ところが、この松田は無人駅にも劣るような状況なんです。この辺の今までの認識はどうだったのか。まず、その辺からお伺いします。

参事兼観光経済課長 今現在、確かに町には駅前ございません。といいますのも御承知のように、JRの駅前にしても、新松田の駅は特にそうなんですけれども、開発という面で抜本的な方針が立っていないというような中で、今まで進んでないのが現状でございます。それと同時に、先ほど来申しておりますけれども、スペースの問題がございます。一回つくった1,000万、2,000万という高額のものを無計画の中で設置することはなかなか難しいと。今現在、うちの当町におきましても

まちづくり課のほうでそこいら辺の整備計画を立てております。その中で計画は計画としてでき上がるまで、駅ができ上がるまで当然10年、20年のスパンがかかりますけれども、こういう計画であればここにはまだ建てる用地があるという場所も見つかると思います。ですから、それまでの間におきましては、本当につくりたいのはやまやまなれど、高額の税金を投資した中で、それをすぐに撤去という、そういうような無計画さをなくしていきたいと、私はそのように考えております。ですから、スペース、また近くで御利用でき得る用地が見つければ、そのエリアにかからないところであれば、仮設トイレのエレガンスのような先ほど来申しておりますけれども、きれいで清潔なトイレがまだありますので、そこら辺で設置できればなというふうに考えております。

5 番 小 澤 今の話の中で、要するに総合計画あるいは長期計画の中になかったからできなかったよと。やっぱりこれそういうことをやっていくのが行政だったんじゃないんですかね。松田が足柄上郡の一番のキーポイントであった、集客力もあった当時からのトイレはつくる気がなかったのか。なくても大丈夫だったのか。しかし、ここへ来てね、やはり人口減少の中で、町長も交流人口をふやしていこうよと、こう言っているわけです。やはり交流人口をふやすということは、松田のよさを知ってもらって、そしてこの町だったら住んでみたいな、あるいはもう一度来てみたいな、こういうふうに思ってもらわなければ、交流人口増加しても意味はないわけですね。そのためにはやはりマイカーで来るよりも交通機関を使って新松田の駅、JR松田の駅に降り立ってもらって、町の中を歩いてもらう、見てもらう。あるいはここを起点としてよそへ観光に行つて、またここへ戻ってもらう。そういう役割は非常に大きいはずなんでね。そのときに新松田の駅、JRの松田駅改札を出て外へ行った。まずトイレに寄つていこうと思ったら、ない。これはこれから総合計画、マスタープランの中で考えていきますよというんじゃないなくて、やはり人口減少というものを目の当たりに突きつけられているわけですから、やはりそれに対してできるところから手を打っていくべきじゃないのかな、こういうように思います。

やはりこの松田という富士山が見える大変風光明媚なところ、交通の要衝であつて、人情も豊かなところ、ここをよその人にどうやってアピールして松田

のよさを知ってもらおうか。これがやはり転入人口をふやしていくという意味からもね、必要ではないのかな。トイレというのは一番先に来る人が気になるところなんです。これは前の一般質問でもありましたけれども、それほど大事なところなんですよ。これは、これも町に住んでいる人には公衆トイレの必要性がわからないんです。よその町から来て、初めてトイレの必要性がわかるんですね。だから、やっぱり視点を變えて、よそから来た人にとってどうなんだというような発想でね、この町を見てもらいたいというように思います。

具体的に話がいけますけれども、新松田駅の北口、一番なければならぬ場所なんです。スペースがないからできないよ。一つやると1,000万円以上お金かかるから、マスタープランができてから考えましょうじゃなくて、私はそういう来訪者に対する心づかいですから、やはりいろんな知恵を絞られたらどうなんですか。あるいは、小田急と交渉をしてみるのも手だろうし、駅前に空き店舗がありますんでね、この辺との話し合いの中からそのマスタープランができる間、できる間やっぱりそれこそ10年とか20年とかかかりますよね。その間、ずっと放っぼっという話ですから、そういった緊急避難的なものをつくっていく、つくっていかなければいけない。私、こう思うんですね。

やはり桜まつりを見ている、一番困っているのが身障者の方、車椅子の方ももちろんですけども、泌尿器系の関係でお腹に袋をつけている人、やはりちょっと広いトイレでやりたいんだよ。でも、ないんですよ、この町に。その辺もありますんでね、まずもう一度新松田駅前のことについて答弁をいただきたい。

参事兼観光経済課長 新松田駅につきましては、今、特に北口については打ち合わせ会を当然今のこちらのまちづくり課のほうでもそういう話を進めております。その中である程度の形、やはり今言ったように、お金、町税の血税でございます。ですから、1,000万、2,000万、あいているからぽっつくって、10年先には取り壊しますよと。そういうふうな発想を私はちょっといかがなものかなと思っています。ですから、今回はマスタープランであっても10年先にできるマスタープランではないと思うんです。ある程度まちづくりのマスタープランというのは、都市マスですよ。都市マスは10年かけてつくろうというときには、日本のという

か、松田町自体が10年先までに10年かけてつくろうというよりは、当面二、三年の間にはマスタープランもできるでしょう。地域の打ち合わせもある程度は固まってくるでしょう。その中に、ここはもう当たらないよというスペースがわかった段階で、それ以外の外周であれば、確かにつくる余地がございますので、そこについては議員おっしゃられるように、常設のトイレをつくることも可能と考えております。

あと一つ。先ほど来、身障者という話もありました。私どもとして、町といたしましても当然今後は高齢化が進んでまいります。ですから、今回、西平畑公園でもハーブ館の横に身障者用の仮設トイレという形でつくりました。そういうものにつきましては、今後、お金の面もあります。ただあと耐久性の問題あります。排水の問題がございます。そこら辺のクリアできる段階に来ましたら、また、この議会にお諮りしたいというふうに考えております。決してやらないとか、そういう形でうちのほうは動いてはおりません。

5 番 小 澤 今、観光課長のほうからですね、都市マスタープランが二、三年のうちにはできるだろうと。それを待ってやりましょうという話ですけども、まちづくり課長、その辺は大丈夫ですか。

まちづくり課長 都市マスタープランということが策定ということで、皆さん、先ほど意見が出ておりますが、この都市マスとの関係は今年度、来年度、2カ年の計画で予算を認めていただいております。今、準備にかかっております。また、このトイレ等詳細な計画はこの都市マスではですね、うたいません。都市マスというのはまたもっと大きなものでありまして、新松田北口周辺の整備の中で、計画の中でこの詳細な部分の計画を立てていきたいというふうに考えています。その計画、北口周辺の計画ですが、基本方針並びに基本構想というのを順次立てていかなければならないということで、今、地権者の方を対象にですね、御意見を伺っているときですが、基本方針を今年度、来年度の2カ年、基本構想をプラス3年として、5年以内に作成しますということで進めてございます。この中でですね、その駅周辺の大きな区画割り、この辺ができるのではないかとということでまちづくりのほうでは考えてございます。以上です。

5 番 小 澤 観光経済課長は二、三年でマスタープランできるから、その中で空いたスペ

ースで考えましょう。このマスタープランがそんな簡単にできるわけは私もないと思った。やっぱり実際これができて、今、まちづくり課長の話で、5年は見てほしいよと。これは最低5年は見てほしいよという意味であって、実際に手をつけようと思えば、さらに5年あるいは10年かかってしまう。つまりその間にですね、この町の人口が1万人を割り込んでしまう。これはもうはっきりいって数字で出ているわけですね。そんな悠長なことをやっていいんですか。ここが一番心配なところなんですよ。だから、もう人口減少、松田町の人口が1万人を割り込むことは遅かれ早かれもう目に見えているわけで、やはりそれじゃ困るんだよと。だから、定住化政策を進めていくんだ。交流人口をふやしていこうよ。この町をとにかく知ってもらおうよ。こんないいところないんだから来てもらおうよ。やっているんだから。それに合わせて、そういう施設もつくっていく必要があるじゃないですか。ここをつくったら、10年後には無駄になるから、10年間つくらずにおきますよ。これじゃあ町長の方針に対してね、やっぱり周りの職員が一緒に押していこうよ。やっといこうと。そういう気持ちにならないじゃないですか。確かに現場としては、いや、そんなことは言うけども、いろいろ交渉もあるし、金もかかるし、スペースの確保も大変だと。それわかりますよ。でも、気持ちとしては、やはり町長がそういう方向でいるんですからね、やっぱりそれに沿って職員一丸となってやっていく必要があるのかなと思います。

確かに新松田の駅前についてはね、現実問題厳しい問題あります。でも、旧加藤化粧品屋さんのところもずっと空いている。マニラ食堂もそうです。隣の地産地消をやっているコスモス館のあの裏もまだ空いている。その辺ちょっと私は知恵を絞って、できるものがあればそういった公衆トイレをつくっていただきたいなど、こういうことでお願いをしておきます。JRの松田駅前の問題、今、ポケットパークありますね。あそこになぜトイレができなかったのか。前回もその質問しましたら、地元から反対があったと。私、反対があったから、地元が協力してもらえないからできませんよと、こういう答弁ありましたよ。地元へ行って、自治会長さん、近所の人と話ししました。そうしたら、できないだろうなという、そういう投げかけがあったと。だから、自治会の中で会議

にはかけていませんよ。自治会長さん個人の判断、近所の人個人が、いややっぱりないほうがいいよというだけのこと。そういう話をですね、自治会の人々に話を何人かに聞きましたら、できればいいですよ。私やりますよ。トイレというのは一度汚しちゃったらどんどん汚れていくから。とにかく毎日掃除しなきゃだめなんです。私、元気なうちだったらずっとやりますよ。こういう人もいられます。JRの松田駅前、やはり今、JRの松田駅が直していますけれども、あれが外から使える公衆トイレができるものなのか。もし、できないとすればポケットパークに公衆トイレがつかれないのか。その辺を伺います。

政策推進課長 JRの駅舎につきましては、一応あそこに公衆トイレができるとは聞いておりません。駅舎の改修だけというふうに伺っております。

参事兼観光経済課長 ポケットパークにつきましては、去年、おととし2カ年をかけて整備が済んでおります。そのときにやはり私、その前任者からの伺い方ですと、ただ少し前段のお話は伺っております。地域からの問題があってつくらないよと、つくれないよという話です。現在もその計画のもとに、ポケットパークはあのようにきれいにインターロッキングで整備しております。やはりそれも1,000万以上の金がかかっております。それをまた同じところに同じように常設でまた1,000万かけて取り壊してつくるというのは余りにも無計画であるというふうに考えております。ですから、その場所について常設・仮設に限らず、今後の課題として受けとめておきたいというふうに考えております。つくる、つくらないにつきましては、あくまでも今のポケットパークにつくることを、常設のトイレをせっかくのインターロッキングを壊してつくるということについては、私は今までの投資的効果を考えますと、ちょっと無謀かなと。それであれば、ほかの場所に、当然今、議員おっしゃられるように、必要性は常々感じておりますので、場所も選定から当然スペースの問題、当然一等地にあります。駅前ですから。そこを使うことにおける費用対効果、また御協力願える方々、そこから辺を相談しながら進めていきたいというふうに考えております。

5 番 小 澤 費用対効果云々言ってますけれどもね、やはり人口減少の中で早い対応を打っていかなくちゃいけないんでね、インターロッキングが大事だったら、あるいは町営駐車場の一部を使ってつくってもいいじゃないですか。私はそれつく



る必要性があるということで、こういう話をしているんであって、お金がもつたないからやりませんよ。あるいは、マスタープランができるまでは手つけられません。この町が今、さびれていこうとしているときに、町の職員がそれを指をくわえて見ているんですか。何とかしなきゃいけないんでしょう。そうしなければ税収だってどんどん落ち込んでいっちゃいますよ。だから、そういう意味からね、やはり一つのこの町の人口を減らさないようにして何とかやっいていこうよ、この町の魅力出していこうよというんだから、それに沿った方向でやっぱり皆さん動いていかないと。町長一人で旗振ったってしょうがないでしょう。私はその辺を感じますね。だから、私自身が非常に気短くてそういうことを言ってるのかどうかわかりませんが、ただもう人口が減っていく。目に見えてわかっている。町の体力も衰えていくことがわかっている中で、どうやってそれを手を打っていくのか。これはやっぱり皆さんで考えましょうよ。そのためにはどうするのかということだと思います。具体的にどうこういつまでやれとは言いませんけれども、そういう方向でぜひひとつ検討してもらいたい。皆さんがやっぱり、皆さんがそういうトイレがやはりこの町には必要だ、なきゃだめだよというようなことをね、しっかりと肌身に感じてもらえれば、やはり何かのときにぽっとやろうということできると思いますので、ひとつお願いをいたします。

議 長 町長ね、答弁がみんなセクション、セクションで若干ニュアンスが違っているので、町長の政策的なものも含めて町長か副町長に、今の5番議員、大事ですからね、お願いします、答弁。

町 長 何度もありがとうございます。まず仮設のトイレというイメージが非常に一人ひとりしか入れないトイレとかということじゃなくて、車椅子も入るような大きめの仮設的なトイレに話をさせてもらっているところなんですね。それで、先ほど中野議員のときにもお話ししたように、トイレをつくらなくて、先ほどとにかくやるべき場所と時期が来ればやりますという意味は当然にあります。それで、先ほどから都市マスタープランの話が出ていて、本年度と来年都市マスの方をやっていかないと、その先につながる計画を立てても、国・県の予算がもらえないということですので、都市マスタープランをつくるとい

うことであります。当然都市マスタープランをつくるに当たっても、そこに概略の話だけではなく、この2年間の間にやはり具体的なところを少しずつ進めていく上で、ここの土地だったらしっかりとした形で道路網も当たらないなというところであれば、当然常設ということで設置するのはもうやぶさかじゃないことであります。

先ほどから何で仮設、仮設という話で何かイメージが悪いような話になっていきますけども、もしも仮設のトイレであれば、先ほどポケットパークにおいても早めに設置をできて、もし計画がそこに道路がぶつかるかということに計画になったときには、また、それを運んでほかのところにも設置ができるということもあって、そういうふうなことを話をさせていただいているのが現状でございます。これまでの私の前任者のときに、いろんなそういう御提案があってもなかなかということでありましたけども、やはり計画を持って一つ一つやっていきたいという思いがありますし、やはり税金を扱っている以上、最終的に無駄じゃなかった、無駄になったなというふうにやっぱりならないようにやっていきたいというふうに思っております。

ポケットパークにしても本当にそういった部分での利用価値はあろうかと思えますし、あそこにはもう私の前の前の町長さんがあそこにそれなりの規模の御計画をされたということもありますので、唯一の町有地でもありますしね、あのあたりに無計画に建設するというだけではちょっと避けたいなという思いもあります。

駅、小田急の北口に関しましても、現状のあのハード的なところで言うと、スペース的にはあそこに一番唯一の貸し駐車場が、有料の貸し駐車場がありますよね。ああいったところに関しましても、一区画御相談ができるようなことも相談しながら一旦仮設という形になりますけども、置かせていただくだとかということも内々で話をしているところでございますので、何にもやらない、町の職員は一体何をやっているんだというようなことのお叱りも十分にわかりますが、今は少しずつそういう方向に向いて進んでいるということだけ御理解をいただければというふうに思います。お願いします。

5 番 小 澤 今、町長の説明を受けまして、とにかく仮設のトイレでも何でも前へ進んで

いこうというような話ですのでね、ぜひそういう方向で進めていただきたいと思います。

それから、山のトイレの話ですけれども、最明寺史跡公園、ことしからジャンボタクシーを出していただきまして、かなりの大勢の人、それからハイカーの人たちが多くなってきました。やはり松田の次の目玉として、桜まつりの次の目玉として、やはりこの最明寺史跡公園のよさをやはり多くの人に知っていただきたい。こういうようなことでことし動いていただきましたけれども、やはりジャンボタクシーが出れば、体のぐあいの悪い人も出てきます。西平畑公園もそうですけれども、確かに和式のトイレがあるんですね。やはり体のぐあいの悪い人、高齢者の人、和式はつらいよという声もかなり聞こえています。できれば洋式のトイレに取りかえができないのかな。ちょうどあの桜が満開のときにですね、河内にありますコスモス学園、あそこの方が車2台で十何人ですかね、来ていられました。そういった自分じゃ運転できない。でも、見たいというような方々が、やはりそういったワゴン車や何かでこう来るようになりましたのでね、そういう人たちのトイレの心配もやっぱりしてやる必要あるなということを思いますので、ぜひ最明寺史跡公園のトイレについてもですね、もう一度点検をして直すべきところは直していただきたいと、こういうように思います。

それから、休憩所、ベンチの話、やっぱり今、一番必要なのは新松田の駅前ですよ。バス待ちの人。なくなっちゃった。これは例えば交番の向こう、踏切との間のところにも例えばベンチを2つ置いてあるとか、何かちょっと座る場所が欲しいんですよ。それぐらいのことだったらできるんじゃないですか。やっぱり新松田のあの駅前に座るところもない、トイレもないという最悪の状態なんでね、ベンチの置く場所ぐらいどこか探せませんか。マニラさんの軒先だっていいじゃないですか。そういう考えありませんか。

参事兼観光経済課長 町といたしましても、それについてはやっぱり地権者の方もいらっしゃいます。あとは安全上の問題もあります。それを考慮しながら、やはり地域の地主さんたちとまた交渉していくというふうに考えております。

また、同時に町中のベンチにつきましても、先ほど来申しておりますけども、

また商店街とか、そこら辺の団体の方を通じて、また個店も通じながら、あらゆる方向でそこら辺はできるスペースさえあれば、うちのほうはもう取り組んでいきたいのはやまやまなところですので、これからそういうような交渉をしてまいりたいというふうに考えております。

5 番 小 澤 課長のほうからやっていきたいのはやまやまだということで、私も新松田の駅前、地元ですからね、町がそういう方向でいてくれれば、幾らでも地権者との交渉はできますから、その辺はやはり地権者にお話をしながら、お宅の軒先にちょっと置けないかと。お宅の引っ込んだところに何か置けないかと。こういう話ししますんでね、そのときにぜひ協力してくださいよ。お願いします。

参事兼観光経済課長 どうも本当にありがとうございます。期待しておりますので、そういうところがあれば、もうどんどん言っていただければ、うちのほうでも先ほど来申ししておりますけれども、やまやまなところですので、お話があれば。

議 長 観光課長、それでは答弁じゃなくてお礼ですか。

参事兼観光経済課長 お礼です。

5 番 小 澤 お礼を言われても困るんで、一緒にやってみましょうよね、それは。そんなところでトイレの話を終わりますけれども。ただやはり 今の答弁の中でも1,000万だとか、1,200万円、1,800万、一つトイレつくるとこんな金かかるんだよということで、何かやろうと思われれば、当然お金がかかってくるわけですよ。やっぱりこの町の財政の中からね、それ引っ張り出せということ大変酷な話で、もうぎりぎりの生活をしているわけですから。であるならばね、こういった投資的なものに使うのに、要するに外貨を獲得してこなきゃいけないんですよ。こういった整備資金の調達するにはやはり外貨の獲得、その一番が今言われているふるさと納税なんですよ。私、3月の議会でも言いましたけれどもね、やっぱりこれふるさと納税をいかに取るか。第二の交付税とも言われております。やはり返礼品をしっかりとしたものをつくって、その返礼品、地産地消のものを買い上げて、それを納税者に配ってやるわけですから。地産地消でいいものができたものを町が買い上げてやる。さっき特産品つくっても販路がない、ないという話ありましたね。その販路をそうやって町でつくればいいんですよ。そうして、半分を納税してくれた人にお返しをしても、残りの半分

近くのもものが投資的事業に使えるわけですから、このふるさと納税をもっと充実させていく必要があると思いますけれども、私、3月に質問して、その後の進捗状況というのはどうなんでしょうか。

政策推進課長 確かにふるさと納税の件、3月にも御質問いただきまして、庁舎内でいろいろやりました。返礼品につきましては、特産物もありますけれども、体験型もいいんじゃないかとかという、いろいろな意見出ております。それをまとめてですね、今、ネットからの応募できるように業者と詰めておりますので、まだアップはしておりませんが、近々にはアップできるような体制には整っております。ですので、どのものを返すかも含めまして、もうちょっと時間をいただければと思っております。進めてはおります。

5 番 小 澤 ありがとうございます。これやはり早急に進めて、それこそ28年度からはしっかりと返礼品、ああ、こんなにいいものがもらえるんだという具体的なものをね、やっぱり出していかないと、ふるさと納税ってなかなかありませんから、これね、本当に外貨獲得のいいチャンスだと思っています。ぜひしっかりですね、やっぱりやっていただきたい。この間も新聞で長野のほうの村で、リンゴだとかイチゴだとかブドウやっていたけれども、何ていうんですか、書面で申し込むんじゃなくて、何かパソコンだとか、スマホで支払いができる。そういうシステムをとった途端に申し込みが殺到したというような話も聞いています。やはり納税する人は簡単にできるような仕組みをつくること、それから、素晴らしい返礼品。それからもっと大事なことは、そのお金をこの町では何に使うんだよ。何に使いたいんだよ。最明寺史跡公園の施設を充実し、拡大していくのに使いたいとか、あるいは寄自然休養村のもっと有効に例えば森林公園をつくっていくんだというような具体的なものを書いて、だから、ふるさと納税を待っているんですよ。こういった具体的なものを出してですね、やっていく。つまり、ふるさと納税をしようという人たちの共感を得ないとね、なかなかそれは実現しないもので、そういうような形で町の財政で足りない部分、これを補っていく、私、いいチャンスだと思います。

それともう1点、地方創生ということで、来年度も新型交付金が1兆円用意されているとあって話も聞きます。まち・ひと・しごと創生本部というような

中で、いかに各自治体から独創性のあるすばらしい政策が提案をされるのか。申請をされるのか。それによってこの新型交付金を配付してこうということでもありますのでね、やはりそういう国が今、いいものが出てくれば、お金を出しますよと言っている。こういうチャンスをうまく使ってですね、そういった国からの交付金を引っ張り出す。山北のコミュニティバスでことし何かお金が出たそうですね。やはりそういう特徴のあるもの、独創性のある政策を打ち出していく。これが非常に大事なんで、これはやっぱり政策推進課長、責任が非常に重いと思いますけれども、町としてはどんな動きしていますか。

政策推進課長 新型交付金の話についてはまだまだ不透明なところがあるんですけども、御存じのように、地方版総合戦略を今年度組み立てていくに当たりまして、何とか6月中に第1回の委員会を開いてですね、それに新しい交付金に対するいろいろなものを考えていこうと、そういうふうに考えております。

5 番 小 澤 今言った、ふるさと納税にしろ、こういった地方創生にしろ、やはり政策推進課長にはかなりプレッシャーがかかりますけれども、町を背負って立つ気持ちでですね、ぜひひとつ頑張ってくださいと思います。

とにかくこの町が置かれた状況の中で、人口減少、高齢化、これを食いとめていくためには、子育て世代をこの町に引っ張り込まなきゃいけないということと、出て行く人を何とか食いとめるというようなことをやっていく。それが今、交流人口のふやそうというのに出ていると思うんですけどもね。そういう一つの目標が、この町の目標がはっきりしている中で、そこに向かってやはり職員が一丸となって進んでいく。で、そのためにはできることから一つ一つ潰していきましょうよ。二宮金次郎さんの言葉でも「積小為大」ですか、という言葉あります。とにかく小さいこと、できることから一つ一つ潰していって、結果として大きなものが得られればいいわけですから、私はマスタープランができないから、まあちょっとそれができるまで待とうよじゃなくて、小さいところから、だから、今のベンチ1個でいいですよ。そういうことから一つ一つ積み上げていきましょうよ。そうすることによって、この松田のよさがわかりますのでね、知ってもらえますので、これで私の一般質問は終わりますけれども、最後に町長さん、その辺の意気込みをですね、ひとつ聞かせいただいて終

わりにしたいと思います。お願いします。

町

長 ありがとうございます。意気込みですよね。少しこういうふう感じているところがあるんですよね。やっぱり物を活用するに当たって、結構ないものねだりをしてしまう。足元を見ると結構いいのがあるんじゃないかなと思うところが非常にあるんですね。ですから、我々自身も、私はよそ者、よそ者と言われますけど、よそから来てみて、気づいていいこと、さっきのゴボウの話じゃないですけどね。やはり地元にもともと根づいていたもの、それをいかにこの松田町が活用してきたか、発信してきたかという問題から考えると、販路の拡大もそうですし、情報発信も非常に下手くそだったなというふうなのを感じています。ですから、これからはIT化されているこの時代の中に、いかに同じものであっても発信の仕方、工夫の仕方を変えることによって同じものが違うように見えてくるということもあろうかと思しますので、やはり温故知新じゃありませんけど、この町にあって、もともと根づいてきたものを生かせる、生かすことと、「風」というコラムに書きましたけれども、非常に足し算でなくて、掛け算をしながら情報発信をしていかなくていけないというように感じていますので、小澤議員から幾つかの御提案と、御協力いただけるという話ということをごいただきました。この質問内容についても、各職員も、幹部職員もそれなりに認識したかと思しますので、常にやってみて失敗したからどうだったということよりも、やる前に何か100点をとるためにやろうとするような空気感がありますので、80点、70点でもいいからやってみようよ。もしかしたら、30点でもやってみようというのはよく言っています。最終的に責任は私が取るわけですからということをおっしゃっていますので、観光課長も…観光経済課長もその辺の気持ちを持って今後やってくれると思いますし、政策推進課長もそういうふうな気持ちであるというふうに認識していますので、今後の動きに注意をしていただいて、もしも皆さんの御希望に沿えないところがあったりするときは、この議場だけではなく、叱咤激励をいただければというふうに思います。よろしくお願いします。以上です。

議

長 以上で受付番号第4号、小澤啓司君の一般質問を終わります。